財務・非財務ハイライト

財務ハイライト

区 分		2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
売上高	(億円)	12,415	13,325	13,473	14,336	14,399	14,859	15,510	15,076	13,590	14,702	**17,066**
海外売上高比率	(%)	16.7	20.3	22.8	27.8	28.2	31.0	32.0	29.9	29.3	33.5	**37.6**
営業利益	(億円)	435	573	439	720	702	708	1,102	1,061	848	1,201	**848**
親会社株主に帰属する当期純利益	(億円)	216	316	155	127	403	362	520	582	496	875	**565**
フリー・キャッシュ・フロー	(億円)	292	421	△ 746	848	1,172	492	740	597	355	510	**△ 1,050**
ネットD/Eレシオ	(倍)	1.4	1.1	1.0	1.0	0.8	0.7	0.7	0.6	0.6	0.7	**0.8**
ROE	(%)	4.6	5.9	2.6	2.1	6.7	5.6	7.7	8.5	6.9	10.9	**6.3**
設備投資額等	(億円)	701	767	801	574	579	693	621	975	984	1,140	**1,001**
1株当たり配当金	(円)	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	12.0	14.0	14.0	14.0	**16.0**

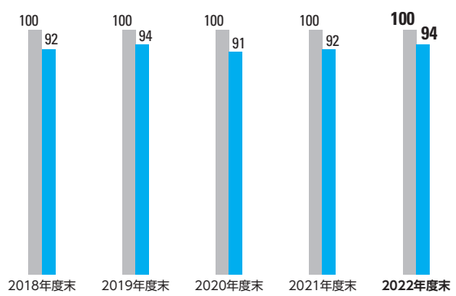
非財務ハイライト

ESGデータ集 ➡ https://ojiholdings.disclosure.site/ja/themes/116/

森林認証取得率※1

100%(国内)／94%(海外)

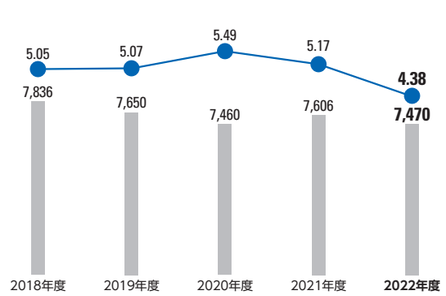
前年度末比(海外) +2pt



温室効果ガス(GHG)排出量※2

7,470千t-CO_2e

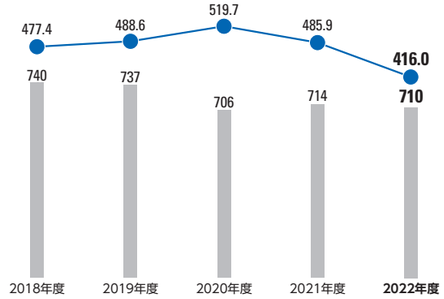
前年度比 -136千t-CO_2e



取水量

710百万m^3

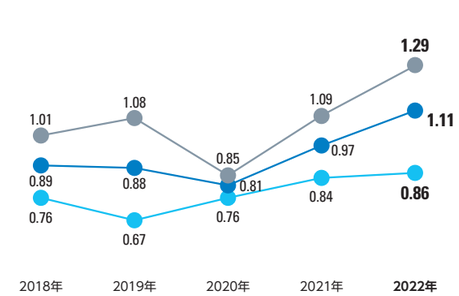
前年度比 -4.3百万m^3



労働災害度数率※2

1.11

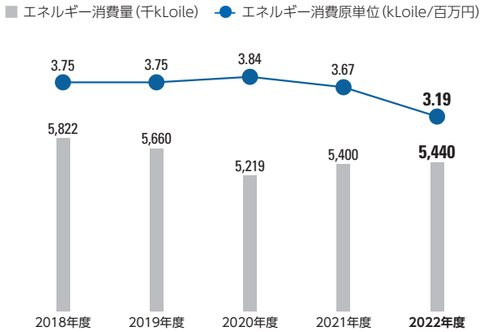
前年比 +0.14



エネルギー消費量※2

5,440千kLoile

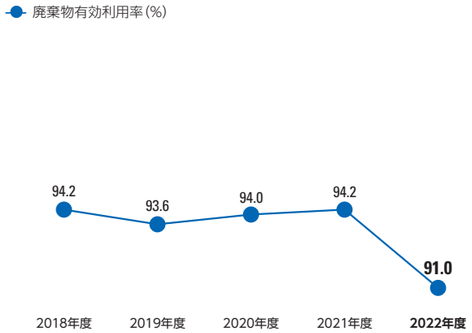
前年度比 +40千kLoile



廃棄物有効利用率※1

91.0%

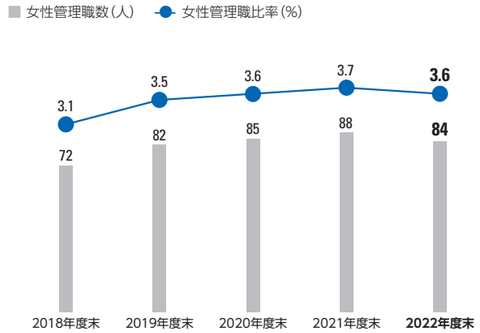
前年度比 -3.2pt



女性管理職比率※2(王子グループ国内16社)

3.6%

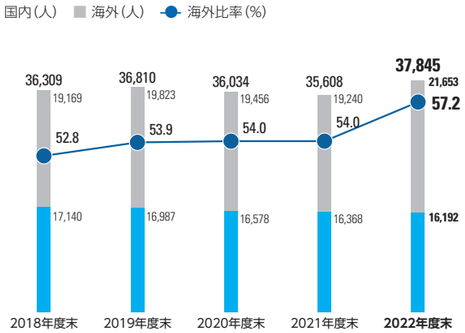
前年度末比 -0.1pt



従業員数(臨時従業員を除く)

37,845人

前年度末比 +2,237人(海外 +2,413人)



※1 算出方法 P87～88参照 ※2 算出方法 P111参照

経営成績の分析・評価

2022年度の業績について

当連結会計年度の売上高は、新型コロナウイルスの感染拡大により停滞していた経済活動の再開による需要の回復やパルプ市況の上昇、また足元の原燃料価格高騰影響を受けた価格修正の実施により、前連結会計年度を2,365億円(16.1%)上回る17,066億円となりました。海外売上高比率は前年度を4.1ポイント上回る37.6%となりました。

営業利益は、上記の価格修正の取り組みに加え、販売量も増加しましたが、原燃料価格高騰影響が大きく、前連結会計年度を353億円(△29.4%)下回る848億円となりました。経常利益は、外貨建債権債務の評価替えによる為替差益の減少もあり、前連結会計年度を401億円(△29.7%)下回る950億円となりました。税金等調整前当期純利益は、前連結会計年度を446億円(△34.5%)下回る846億円、親会社株主に帰属する当期純利益は、前連結会計年度を310億円(△35.5%)下回る565億円となりました。

財政状態について

営業活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度に対して1,253億円収入が減少し、183億円(前連結会計年度は1,436億円の収入)となりました。主なキャッシュの増加は、税金等調整前純利益に減価償却費を加えた金額1,577億円(前連結会計年度は1,951億円)であり、主なキャッシュの減少は、売上債権の増加439億円(前連結会計年度は210億円の増加)、棚卸資産の増加426億円(前連結会計年度は260億円の増加)および法人税等の支払額469億円(前連結会計年度は223億円の支払い)によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形および無形固定資産の取得による支出等により、1,233億円の支出(前連結会計年度は926億円の支出)となりました。有形及び無形固定資産の取得による支出の主な内容は、能力増強・更新や品質改善、省力化、生産性向上、安全、環境のために必要な設備投資です。

財務活動によるキャッシュ・フローは、コマーシャル・ペーパーの発行による収入等により、1,018億円の収入(前連結会計年度は1,360億円の支出)となりました。

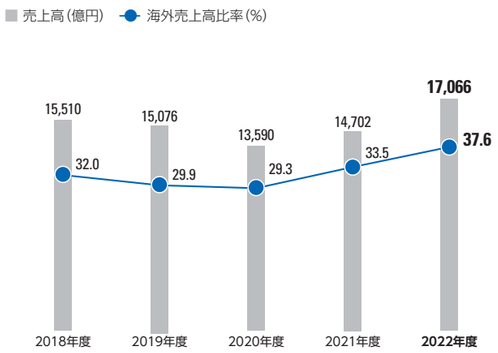
当連結会計年度末の総資産は、有形固定資産、売掛金、棚卸資産等の増加に加え、円安の進行による為替換算差もあり、前連結会計年度末に対し2,423億円増加し、22,960億円となりました。負債は、有利子負債等の増加により、前連結会計年度末から1,532億円増加し、13,315億円となりました。純有利子負債残高(有利子負債－現金及び現金同等物等)は、前連結会計年度末から1,366億円増加し、7,313億円となりました。純資産は、為替換算調整勘定や利益剰余金等の増加により、前連結会計年度末から891億円増加し、9,646億円となりました。

次期の業績見通し

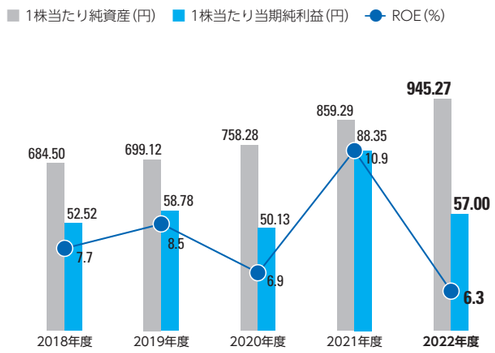
2023年度の連結業績予想は、売上高18,000億円、営業利益1,000億円、経常利益1,000億円、親会社株主に帰属する当期純利益650億円を見込んでいます。

2024年度を最終年度とする中期経営計画の２年目に入り、原燃料価格の高騰や為替の大きな変動など、事業環境の目まぐるしい変化に直面していますが、引き続き「環境問題への取り組み -Sustainability-」、「収益向上への取り組み -Profitability-」、「製品開発への取り組み -Green Innovation-」の着実な遂行により、さらなる成長と進化を目指し、企業価値の向上に努めます。

売上高・海外売上高比率



1株当たり純資産・1株当たり当期純利益・ROE



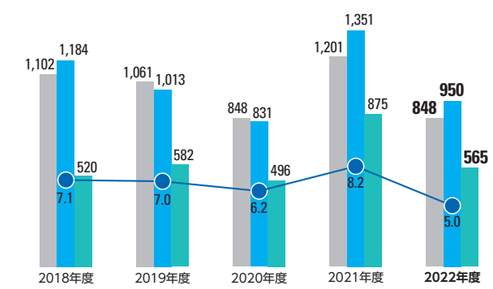
財務データ概況

財産および損益の状況の推移

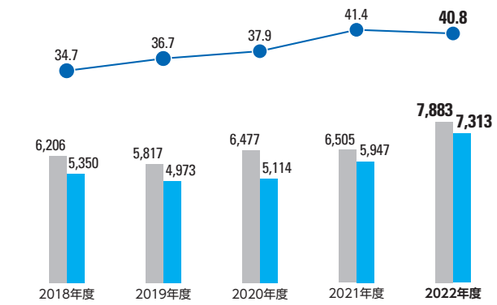
区分		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
売上高	(百万円)	1,550,991	1,507,607	1,358,985	1,470,161	**1,706,641**
営業利益	(百万円)	110,212	106,125	84,793	120,119	**84,818**
経常利益	(百万円)	118,370	101,289	83,061	135,100	**95,008**
親会社株主に帰属する当期純利益	(百万円)	51,977	58,181	49,635	87,509	**56,483**
総資産	(百万円)	1,951,369	1,885,280	1,981,438	2,053,752	**2,296,018**
純資産	(百万円)	815,406	831,657	865,606	875,470	**964,564**
1株当たり当期純利益	(円)	52.52	58.78	50.13	88.35	**57.00**
1株当たり純資産	(円)	684.50	699.12	758.28	859.29	**945.27**

① 1株当たり当期純利益は、期中平均株式数で除して算出しています。なお、期中平均株式数については自己株式数を控除しています。
② 1株当たり純資産は、期末発行済株式数で除して算出しています。なお、期末発行済株式数については自己株式数を控除しています。
③ 百万円未満は切り捨てて表示しています。

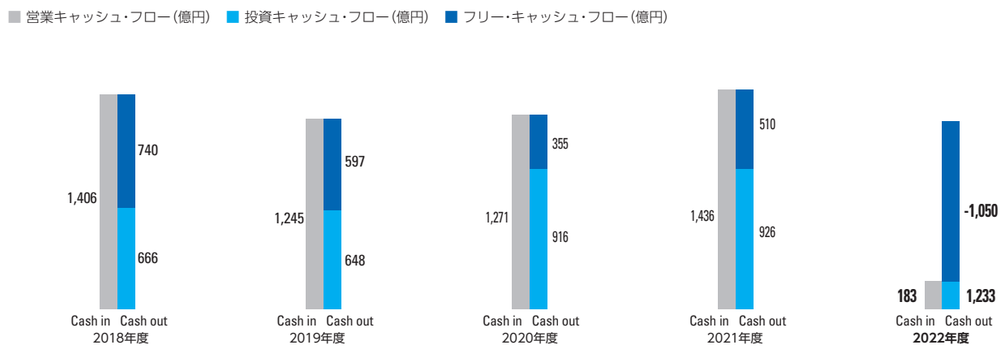
営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益・売上高営業利益率



有利子負債・純有利子負債・自己資本比率



キャッシュ・フロー推移



財務データ概況

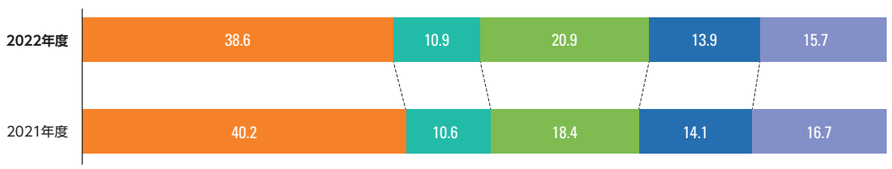
各事業部門の状況

区　分		売上高	営業利益
生活産業資材	(百万円)	780,527	△ 1,234
機能材	(百万円)	219,902	15,487
資源環境ビジネス	(百万円)	423,801	68,530
印刷情報メディア	(百万円)	280,980	△ 4,779
その他	(百万円)	318,130	8,448
計	(百万円)	2,023,342	86,451
調整額	(百万円)	△ 316,700	△ 1,632
合計	(百万円)	1,706,641	84,818

① 調整額は、主として内部取引に関わる調整額です。
② 百万円未満は切り捨てて表示しています。

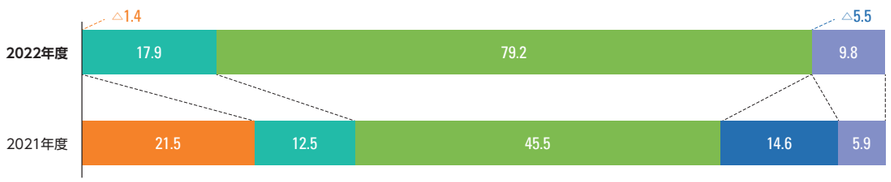
事業部門別売上高構成比

■ 生活産業資材　■ 機能材　■ 資源環境ビジネス　■ 印刷情報メディア　■ その他　(単位:%)



事業部門別営業利益構成比

■ 生活産業資材　■ 機能材　■ 資源環境ビジネス　■ 印刷情報メディア　■ その他　(単位:%)



＊ 事業部門別の売上高および営業利益構成比は、調整額(内部取引に関わる調整額等)を除いて計算しています。

連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	44,749	**50,774**
受取手形	60,227	**64,768**
売掛金	260,231	**309,604**
契約資産	3,983	**2,995**
有価証券	11,074	**6,299**
商品及び製品	98,616	**117,473**
仕掛品	20,294	**23,510**
原材料及び貯蔵品	106,266	**140,337**
短期貸付金	4,764	**4,101**
未収入金	18,575	**33,877**
その他	18,800	**36,717**
貸倒引当金	△1,790	**△1,791**
流動資産合計	645,795	**788,670**
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	709,982	**746,007**
減価償却累計額	△513,533	**△529,962**
建物及び構築物(純額)	196,448	**216,045**
機械装置及び運搬具	2,495,207	**2,629,592**
減価償却累計額	△2,156,261	**△2,221,722**
機械装置及び運搬具(純額)	338,946	**407,869**
工具、器具及び備品	61,622	**63,934**
減価償却累計額	△56,037	**△57,380**
工具、器具及び備品(純額)	5,585	**6,553**
土地	240,765	**242,287**
林地	116,490	**133,123**
植林立木	92,343	**111,352**
リース資産	65,356	**76,573**
減価償却累計額	△22,713	**△29,209**
リース資産(純額)	42,643	**47,363**
建設仮勘定	94,091	**43,639**
有形固定資産合計	1,127,315	**1,208,234**
無形固定資産		
のれん	3,472	**11,868**
その他	8,079	**14,119**
無形固定資産合計	11,552	**25,988**
投資その他の資産		
投資有価証券	168,545	**180,067**
長期貸付金	5,571	**4,693**
長期前払費用	3,497	**2,760**
退職給付に係る資産	61,542	**53,837**
繰延税金資産	8,819	**6,816**
その他	22,095	**26,921**
貸倒引当金	△982	**△1,972**
投資その他の資産合計	269,089	**273,124**
固定資産合計	1,407,956	**1,507,347**
資産合計	2,053,752	**2,296,018**

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	234,650	**251,176**
短期借入金	166,445	**226,739**
コマーシャル・ペーパー	—	**86,000**
未払金	24,653	**20,111**
未払費用	51,457	**49,809**
未払法人税等	23,993	**16,643**
その他	31,818	**36,591**
流動負債合計	533,020	**687,070**
固定負債		
社債	155,000	**155,000**
長期借入金	329,062	**320,599**
繰延税金負債	64,013	**69,283**
再評価に係る繰延税金負債	7,737	**7,732**
退職給付に係る負債	54,022	**53,537**
長期預り金	6,809	**6,620**
その他	28,616	**31,609**
固定負債合計	645,261	**644,383**
負債合計	1,178,282	**1,331,453**
純資産の部		
株主資本		
資本金	103,880	**103,880**
資本剰余金	99,163	**85,892**
利益剰余金	567,150	**607,593**
自己株式	△13,277	**△12,949**
株主資本合計	756,918	**784,418**
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	30,500	**41,573**
繰延ヘッジ損益	2,076	**474**
土地再評価差額金	5,728	**5,716**
為替換算調整勘定	29,593	**85,253**
退職給付に係る調整累計額	26,415	**19,514**
その他の包括利益累計額合計	94,314	**152,531**
新株予約権	157	**134**
非支配株主持分	24,080	**27,480**
純資産合計	875,470	**964,564**
負債純資産合計	2,053,752	**2,296,018**

連結財務諸表

連結損益計算書

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月 1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月 1日 至 2023年3月31日)
売上高	1,470,161	**1,706,641**
売上原価	1,126,207	**1,366,642**
売上総利益	343,954	**339,999**
販売費及び一般管理費		
運賃諸掛	112,417	**135,135**
保管費	6,771	**6,747**
従業員給料	52,957	**55,105**
退職給付費用	△241	**695**
減価償却費	5,624	**6,080**
その他	46,306	**51,417**
販売費及び一般管理費合計	223,834	**255,181**
営業利益	120,119	**84,818**
営業外収益		
受取利息	883	**1,367**
受取配当金	3,269	**3,632**
為替差益	15,404	**8,337**
持分法による投資利益	2,679	**2,924**
デリバティブ評価益	1,367	**2,838**
その他	6,777	**6,325**
営業外収益合計	30,381	**25,427**
営業外費用		
支払利息	6,692	**6,310**
その他	8,708	**8,925**
営業外費用合計	15,401	**15,236**
経常利益	135,100	**95,008**
特別利益		
受取保険金	904	**4,992**
投資有価証券売却益	651	**1,065**
退職給付信託返還益	1,049	**—**
その他	2,300	**270**
特別利益合計	4,906	**6,327**
特別損失		
災害による損失	2,007	**7,634**
固定資産除却損	2,283	**3,159**
事業構造改善費用	1,869	**1,909**
訴訟損失引当金繰入額	—	**1,839**
その他	4,584	**2,175**
特別損失合計	10,745	**16,718**
税金等調整前当期純利益	129,262	**84,617**
法人税、住民税及び事業税	37,476	**26,434**
法人税等調整額	△614	**41**
法人税等合計	36,861	**26,476**
当期純利益	92,400	**58,141**
非支配株主に帰属する当期純利益	4,890	**1,657**
親会社株主に帰属する当期純利益	87,509	**56,483**

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月 1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月 1日 至 2023年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	129,262	**84,617**
減価償却費	65,885	**73,034**
のれん償却額	804	**1,058**
植林立木の簿価払出し額	6,995	**7,895**
貸倒引当金の増減額(△は減少)	31	**911**
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	△3,498	**△3,240**
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△60	**△1,415**
受取利息及び受取配当金	△4,152	**△5,000**
支払利息	6,692	**6,310**
為替差損益(△は益)	△12,626	**△6,911**
持分法による投資損益(△は益)	△2,679	**△2,924**
投資有価証券売却損益(△は益)	282	**△1,052**
退職給付信託返還損益(△は益)	△1,049	**—**
固定資産除却損	2,283	**3,159**
事業構造改善費用	1,869	**1,909**
売上債権の増減額(△は増加)	△20,960	**△43,889**
棚卸資産の増減額(△は増加)	△26,001	**△42,615**
仕入債務の増減額(△は減少)	33,937	**9,533**
その他	△10,243	**△18,740**
小計	166,771	**62,642**
利息及び配当金の受取額	4,962	**7,731**
利息の支払額	△5,805	**△5,169**
法人税等の支払額	△22,341	**△46,940**
営業活動によるキャッシュ・フロー	143,587	**18,262**
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形及び無形固定資産の取得による支出	△98,659	**△94,109**
有形及び無形固定資産の売却による収入	2,905	**555**
投資有価証券の取得による支出	△1,308	**△1,747**
投資有価証券の売却及び償還による収入	4,967	**3,404**
貸付けによる支出	△546	**△911**
貸付金の回収による収入	1,640	**2,484**
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△1,441	**△32,864**
その他	△125	**△85**
投資活動によるキャッシュ・フロー	△92,567	**△123,274**

	前連結会計年度 (自 2021年4月 1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月 1日 至 2023年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△23,001	**33,310**
コマーシャル・ペーパーの純増減額(△は減少)	—	**86,000**
長期借入れによる収入	26,003	**64,655**
長期借入金の返済による支出	△5,218	**△59,881**
子会社の自己株式の取得による支出	△77,000	**—**
リース債務の返済による支出	△6,952	**△6,618**
配当金の支払額	△13,889	**△14,883**
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△35,059	**△307**
その他	△883	**△487**
財務活動によるキャッシュ・フロー	△136,002	**101,787**
現金及び現金同等物に係る換算差額	4,691	**4,637**
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△80,291	**1,413**
現金及び現金同等物の期首残高	135,669	**55,474**
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	115	**—**
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△20	**△50**
現金及び現金同等物の期末残高	55,474	**56,837**

第三者保証

★ 2022年度を対象として、KPMGあずさサステナビリティ株式会社による第三者保証を受けています。

環境データ

集計期間: 国内: 各年度の4月1日～3月31日、海外: 各年度の1月1日～12月31日(インド、ミャンマーは4月1日～3月31日)
集計範囲: 国内および海外の連結子会社(非生産拠点を除く)を対象としています(VOC排出量は注釈参照)。

温室効果ガス(GHG)・エネルギー消費		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
★ 温室効果ガス排出量(Scope 1+ Scope 2)※1	(千t-CO_2e)	7,836	7,650	7,460	7,606	**7,470**※5
★ Scope 1	(千t-CO_2e)	6,394	6,323	6,267	6,398	**6,399**※5
★ Scope 2	(千t-CO_2e)	1,442	1,327	1,193	1,208	**1,071**※5、※6
★ Scope 3 購入した製品・サービス※2	(千t-CO_2e)	3,923	3,766	3,430	3,663	**3,670**※5
★ FIT販売電力による市中GHGの潜在的削減量※3	(千t-CO_2e)					**480**
★ エネルギー消費量(原油換算)※4	(千kL)	5,822	5,660	5,219	5,400	**5,440**※5

※1 温室効果ガス(GHG)
Scope 1算定
国内: エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律(省エネ法)、地球温暖化対策の推進に関する法律(温対法)に準じた算定
・電力事業(他社への電気または熱供給)や社有車による輸送に係る排出量を含めています。
・購入した廃棄物燃料の使用に伴って発生するCO_2排出量は除外しています。
海外: GHGプロトコルイニシアティブに準じた算定
・廃棄物の単純焼却に係る温室効果ガス(GHG)排出量は除外しています。
・廃棄物処分および排水処理に係る温室効果ガス(GHG)排出量は除外しています。
・生石灰の製造(石灰キルン)に伴って発生する非エネルギーの温室効果ガス(GHG)排出量は除外しています。
Scope 2算定
国内: 環境省・経済産業省公表の電気事業者別の基礎排出係数
海外: IEA 公表の国別排出係数(2010年値)
※2 Scope 3 購入した製品・サービス: 原材料・部品、仕入商品・販売に係る資材等が製造されるまでの活動に伴う排出。排出原単位は、サプライチェーンを通じた組織のGHG排出等の算出のための排出原単位ベース(ver.3.2)およびCO_2換算量共通原単位データベース(ver.4.0)を参照。
※3 FIT販売電力による市中GHGの潜在的削減量
再生可能エネルギーの固定価格買取制度(FIT制度)による販売電力が電気需要家のCO_2排出量を間接的に削減しているものとみなし、その削減に相当する量を算定しました。
潜在的削減量＝FIT販売電力量×全国平均係数
FIT販売電力:FIT制度を通して販売した、国内グループ会社のバイオマス・水力・太陽光発電による電気の量
全国平均係数:温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度において、非化石電源二酸化炭素削減相当量の算定に用いる係数
※4 エネルギー消費量: 以下のエネルギー使用を除いた、製品製造に伴うエネルギーの消費量を算定しています。
電力事業(他人への電気または熱供給)や社有車による輸送に係る消費量は除外しています。
化石および非化石由来のエネルギー量から他人への電気または熱の供給に係るものを除外しています。
単位発熱量は、以下の法律や国際基準を使用して算定しています。
国内: エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律、地球温暖化対策の推進に関する法律
海外: IPCC 2006 Guidelines for National Greenhouse Gas Inventories
非化石燃料の単位発熱量は、削減目標との比較可能性を重視し、2018年度の報告に使用していた係数を使用しています。
※5 自然災害のためデータ収集に支障があった拠点について、2019～2021年度の実績値に基づき生産量を用いて算出した推計値を使用しています。
※6 海外の一部拠点について、購入蒸気の排出係数を実態に合わせて変更したことにより、排出量の算定値が92千t-CO_2e減少しました。

環境影響		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
★ 産業廃棄物発生量※7	(千t)	2,875	2,757	2,733	2,772	**2,989**※5
★ VOC排出量※8	(t)	523	481	227	232	**182**

※7 産業廃棄物発生量
廃棄物発生量は、有価物を含む数量です(一般廃棄物は含んでいません)。
※8 VOC排出量
国内PRTR法が対象の国内グループ会社を集計対象としています。
PRTR法対象物質のうち、大気汚染防止法に基づく環境省が示す主なVOC100種に該当するものを集計しています。

取水・排水		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
★ 取水量	(千m^3)	740,398	736,684	706,298	714,281	**709,966**※5
★ 排水量	(千m^3)	708,494	701,024	671,965	675,849	**672,780**※5

社会データ

労働安全／ダイバーシティ			2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
★ 労働災害度数率※9	グループ全体		0.89	0.88	0.81	0.97	**1.11**
	国内		0.76	0.67	0.76	0.84	**0.86**
	海外		1.01	1.08	0.85	1.09	**1.29**
★ 女性管理職比率※10	国内16社	(%)	3.1	3.5	3.6	3.7	**3.6**
★ 障がい者雇用率※11	国内グループ適用6社	(%)	2.17	2.27	2.31	2.35	**2.51**
	国内81社	(%)	1.91	2.01	2.04	2.10	**2.20**

※9 集計期間: 1月1日から12月31日
集計範囲: 王子ホールディングス株式会社および連結子会社
労働災害度数率＝(労働災害による死傷者数÷延べ労働時間数)×1,000,000
延べ労働時間数は、2021年までは9月末時点のグループ会社従業員数(正規従業員および臨時・正規外従業員)に基づき、1人当たりの年間労働時間数を2,000時間として算出していたが、2022年より各社から申告された12月末までの実総労働時間に変更しています。2021年までと同様の方法で算定した場合、2022年度の労働災害度数率はグループ全体、国内および海外でそれぞれ1.25、0.98、1.46です。
※10 集計時期: 各年度の3月31日時点
集計範囲: 国内グループ16社(2015年9月集計開始時 従業員301人以上)
女性管理職比率＝女性管理職数÷男女管理職数
※11 集計時期: 各年度の翌年6月1日時点
集計範囲:
国内グループ適用6社: 王子ホールディングス、王子ネピア、王子イメージングメディア、王子製紙、王子マネジメントオフィス、王子クリーンメイト
国内81社: 2023年度の法定雇用率2.3%において1名以上の障がい者の雇用義務のある、従業員43.5人以上の国内81社(国内適用6社含む)
障がい者雇用率(実雇用率)＝身体障がい者および知的障がい者および精神障がい者である常用労働者数÷常用労働者数
(短時間労働者は1人を0.5人、重度障がい者は1人を2人としてカウント)

ESGデータ集 ➡ https://ojiholdings.disclosure.site/ja/themes/116/

独立した第三者保証報告書

2023年8月29日

王子ホールディングス株式会社
代表取締役社長　磯野　裕之 殿

KPMGあずさサステナビリティ株式会社
東京都千代田区大手町一丁目９番７号

代表取締役 斉藤　和彦 ㊞

当社は、王子ホールディングス株式会社(以下、「会社」という。)からの委嘱に基づき、会社が作成した王子グループ統合報告書2023(以下、「統合報告書」という。)に記載されている2022年4月1日から2023年3月31日まで(労働災害度数率については2022年1月1日から2022年12月31日まで、障がい者雇用率については2023年6月1日時点)を対象とした★マークの付されている環境・社会パフォーマンス指標(以下、「指標」という。)に対して限定的保証業務を実施した。

会社の責任

会社が定めた指標の算定・報告規準(以下、「会社の定める規準」という。統合報告書に記載。)に従って指標を算定し、表示する責任は会社にある。

当社の責任

当社の責任は、限定的保証業務を実施し、実施した手続に基づいて結論を表明することにある。当社は、国際監査・保証基準審議会の国際保証業務基準(ISAE)3000「過去財務情報の監査又はレビュー以外の保証業務」及びISAE3410「温室効果ガス情報に対する保証業務」に準拠して限定的保証業務を実施した。

本保証業務は限定的保証業務であり、主として統合報告書上の開示情報の作成に責任を有するもの等に対する質問、分析的手続等の保証手続を通じて実施され、合理的保証業務における手続と比べて、その種類は異なり、実施の程度は狭く、合理的保証業務ほどには高い水準の保証を与えるものではない。当社の実施した保証手続には以下の手続が含まれる。

- 統合報告書の作成・開示方針についての質問及び会社の定める規準の検討
- 指標に関する算定方法並びに内部統制の整備状況に関する質問
- 集計データに対する分析的手続の実施
- 会社の定める規準に従って指標が把握、集計、開示されているかについて、試査により入手した証拠との照合並びに再計算の実施
- リスク分析に基づき選定した王子マテリア株式会社 大分工場における現地往査
- 指標の表示の妥当性に関する検討

結論

上述の保証手続の結果、統合報告書に記載されている指標が、すべての重要な点において、会社の定める規準に従って算定され、表示されていないと認められる事項は発見されなかった。

当社の独立性と品質マネジメント

当社は、誠実性、客観性、職業的専門家としての能力及び正当な注意、守秘義務及び職業的専門家としての行動に関する基本原則に基づく独立性並びにその他の要件を含む、国際会計士倫理基準審議会の公表した「職業会計士の倫理規程」を遵守した。

当社は、国際品質マネジメント基準第1号に準拠して、倫理要件、職業的専門家としての基準並びに適用される法令及び規則の要件の遵守に関する方針又は手続を含む、品質マネジメントシステムをデザイン、適用及び運用している。

以 上

上記は保証報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社およびKPMGあずさサステナビリティ株式会社がそれぞれ別途保管しています。

会社概要／株式情報／社外からの評価

会社概要（2023年3月31日）

会社名	王子ホールディングス株式会社 （英語表記：Oji Holdings Corporation）
代表取締役社長	磯野　裕之
本社所在地	〒104-0061 東京都中央区銀座四丁目7番5号
創業	1873年（明治6年）2月12日
設立	1949年（昭和24年）8月1日
資本金	103,880百万円
発行可能株式総数	2,400,000,000株
発行済株式総数 （うち自己株式）	1,014,381,817株（21,423,438株）
株主数	85,662名
連結従業員数	37,845名

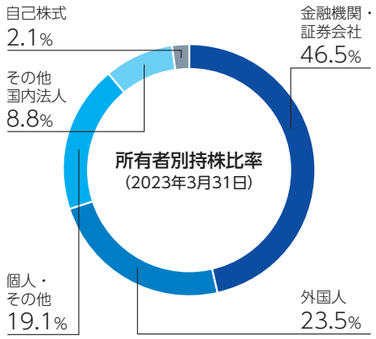
株式情報（2023年3月31日）

上場証券取引所	東京
証券コード	3861
株主名簿管理人 および 特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
フリーダイヤル	0120-782-031

大株主の状況（2023年3月31日）

株主名	持株数（千株）	持株比率（%）
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	147,974	14.9
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	68,241	6.9
株式会社日本カストディ銀行（信託口4）	34,228	3.4
株式会社三井住友銀行	31,668	3.2
日本生命保険相互会社	25,658	2.6
株式会社みずほ銀行	21,636	2.2
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	20,507	2.1
王子グループ従業員持株会	20,422	2.1
農林中央金庫	16,654	1.7
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	15,153	1.5

① 当社は、自己株式を21,423千株保有していますが、上記大株主からは除外しています。
② 持株比率は、自己株式（21,423千株）を控除して計算しています。
③ 千株未満は切り捨てて表示しています。



社外からの評価

FTSE Blossom Japan Index※
FTSE Russell社によるESG指数「FTSE Blossom Japan Index」に、2019年9月から選定されています。（対象：王子ホールディングス）

FTSE4Good Index Series
FTSE Russell社によるESG指数「FTSE4Good Index Series」に、2019年9月から選定されています。（対象：王子ホールディングス）

FTSE Blossom Japan Sector Relative Index※
FTSE Russell社によるESG指数「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」に、2022年4月から認定されています。（対象：王子ホールディングス）

SOMPOサステナビリティ・インデックス
SOMPOアセットマネジメント株式会社の運用プロダクト「SOMPOサステナブル運用」に用いられる、「SOMPOサステナビリティ・インデックス」に、2019年6月から選定されています。（対象：王子ホールディングス）

S&P/JPXカーボン・エフィシェント指数※
企業の環境情報の開示や売上高当たりの炭素排出量に着目して、構成銘柄を決定する「S&P/JPXカーボン・エフィシェント指数」に、2018年9月から選定されています。（対象：王子ホールディングス）

Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index
持続可能性に優れた企業を選定する「Dow Jones Sustainability Index（DJSI）」の「Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index」構成銘柄に2020年11月から選定されています。

MSCI日本株女性活躍指数（WIN）※
MSCI社によるESG指標「MSCI 日本株女性活躍指数（WIN）」に、2017年6月から選定されています。（対象：王子ホールディングス）

女性活躍推進法に基づく優良企業認定マーク「えるぼし」
2017年12月21日、女性の活躍推進の取り組み状況等が優良な企業に、厚生労働大臣より与えられる「えるぼし」の最高位である第3段階の認定を取得しました。（対象：王子ホールディングス）

健康経営優良法人2023
2023年3月8日、経済産業省と日本健康会議が共同で進める「健康経営優良法人2023（大規模法人部門）」に認定されました。（対象：王子ホールディングス、王子マネジメントオフィス）

CDP
2022年12月、国際的な非政府組織CDPより、フォレスト（木材）において、持続可能な森林経営が認められ、最高評価「Aスコア」を獲得しました。（対象：王子ホールディングス）

ESGファイナンス・アワード・ジャパン
2023年2月、第4回「ESGファイナンス・アワード・ジャパン」の環境サステナブル企業部門において、「環境サステナブル企業」に選定されました。（対象：王子ホールディングス）

※GPIF（年金積立金管理運用独立行政法人）が選定するESG指数。

王子グループの1年

2023

「ネピア 鼻セレブ洗顔専用」の発売（P50）

「ネピア やさしいGenki!」の
リニューアルを発表（2023年4月発売）
©やなせ・F・T・N

3月

王子コンテナー　段ボール工場新設・移転
稼働開始（P47）

2月

150th anniversary OJI Group
王子グループ 創立150周年
（2月12日）

1月

GSPP
段ボール新工場稼働開始（P47）

12月

液体紙容器用加工紙・充填機製造販売会社
IPIの買収を発表

11月

富士研修センター開設（P98）

10月

王子グリーンエナジー徳島
バイオマス発電所 稼働開始（P58）

9月

Ojitex (Vietnam) Co., Ltd.
段ボール新工場
稼働開始（P46）

8月

高機能ラベル印刷加工会社
Adampak Pte.Ltd.買収（P53）

7月

「マテリアルリサイクルに対応した環境配慮型紙コップ原紙」開発（P40）

6月

5月

中期経営計画、
長期ビジョン、
存在意義（パーパス）
を発表

4月

2022